

第1回噴火湾ホタテガイ情報(2015年) 発行日:平成27年2月25日

発行:函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場 協力:胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

現在、湾内には表層から親潮水が流入してきており、表層水温は2~3℃となっています。溶存酸素は湾内全域で6mL/L以上と、十分に供給されている状態です。ホタテガイの垂下水深帯での水温・塩分はほぼ平年並みで、特に注意を要するような環境変化は観測されていません。

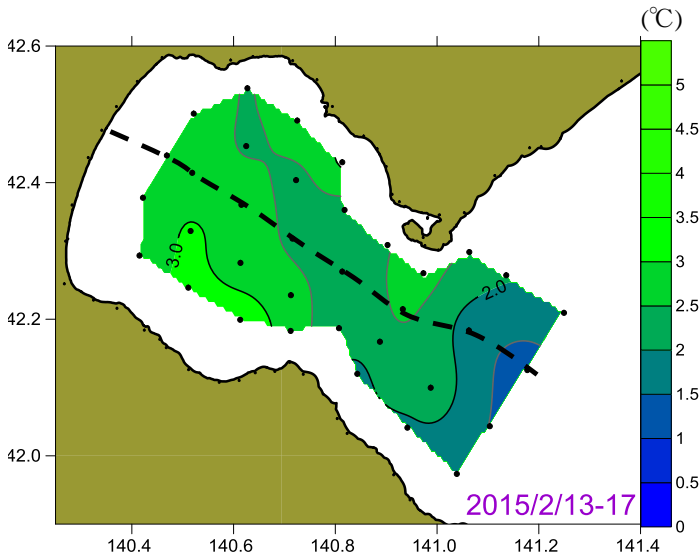


図1. 10m深の水温分布

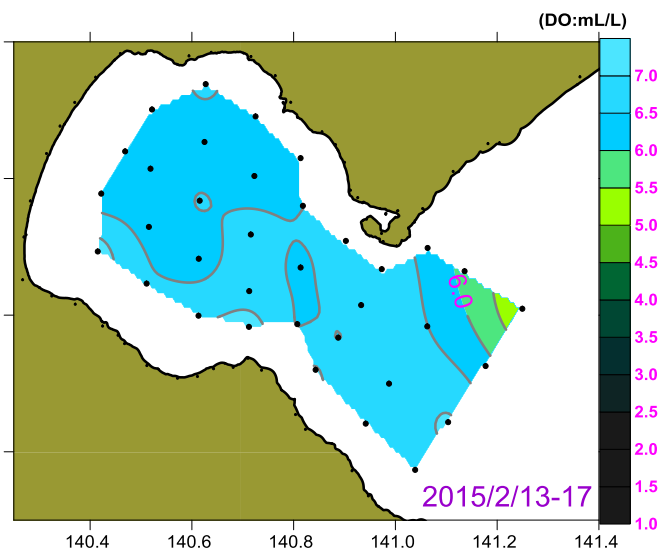


図2. 海底上5mの溶存酸素濃度分布

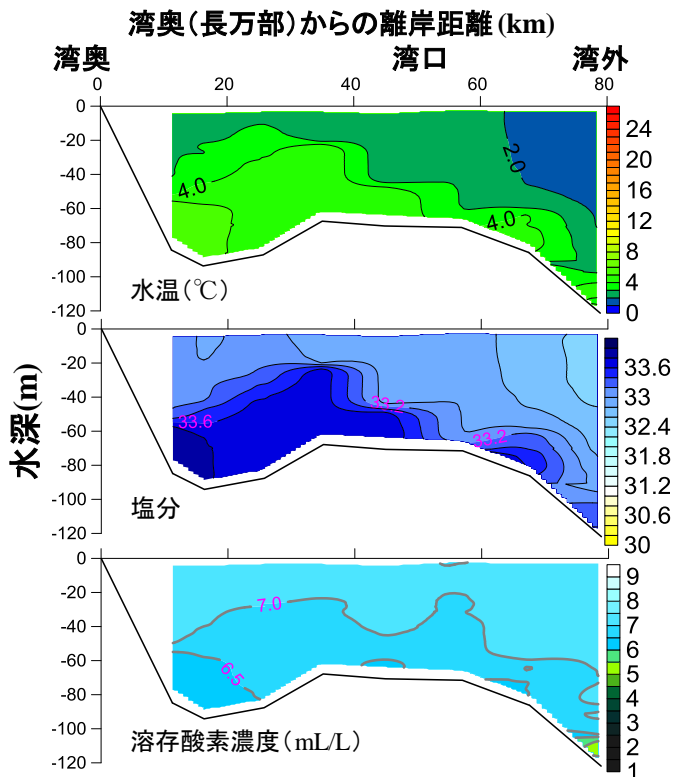


図3. 噴火湾縦断面(図1破線部)の水温、塩分、溶存酸素濃度分布

【環境情報】

2月13~17日に釧路水産試験場調査船の「北辰丸」で海洋観測を実施しました。

●**水温・塩分**:湾内10m深の水温は全域で2~3℃と平年並みで(図1), 20m以浅ではほぼ一様な状態です(図3)。この20m以浅には湾外から親潮水(塩分33.3以下:図3中段の薄い青部分)が流入しています。一方、湾内40m以深には、水温が4~5℃で塩分33.6程度の津軽暖流水起源の水が残留しており、表層よりも暖かい状態です。今後は深い所にも湾外から親潮水が流入することで、海面と同程度まで水温は下がると考えられます。

●**溶存酸素濃度**:溶存酸素濃度は湾内の海面から海底まで6mL/L以上と、十分に供給されている状態です(図2, 3)。

(連絡先:函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL: 0138-83-2893)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>